

Lesson 12 New E7 Chord

Lesson 12 E7 コード

今回は E7 コードの使い方について解説してみよう。

以前は E コードを採り上げたけど、今回は E7 だ。その中身は後程やるけど、とにかくまずはこれが E7 コードだ。(0:18)

(0:22)今度はこれを少し上の音域で弾いてみよう。

(冒頭で弾いた低い E7 のサウンドよりも) 上げたときのサウンドの方が明るい感じだけど、あくまでもコード構成音同じだということを確認してね。

押さえ方は、中指で 3 弦 4 フレット B、人差し指が 2 弦 3 フレット D、薬指が 1 弦 4 フレット G#だ。

-playing(1:00)-

(1:06)

いいかな？

これをしばらく弾いた後、その型のまま 1 音分下げる。

そして (1 弦~3 弦を使った) E コードに行く。

やってみるよ。

-playing(1:26)-

(1:42)

こんな感じだね。

このように上 3 つの弦 (1 弦~3 弦) をダウンストロークで弾く。その時、6 弦や 5 弦辺りを親指で、そして中指で 4 弦 (Robben は間違えて薬指と言っている) に触れて、不要な弦が鳴るのを防いでいるよ。

最初のうちはなかなか出来ないかもしれないけど、慣れればできるようになるからね。

とにかく、不要な音を鳴らさないように気を付けてね。

ではもう一度。

-playing(2:23)-

【注記】

- ・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている個所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳 山岸敦